

横須賀市中小企業景況レポート

第 15 号 (平成 28 年 7 月号)

編集・発行：横須賀市経済部経済企画課
〒238-8550 横須賀市小川町 11
電話 046-822-8122

市内中小企業の景況感を調査しました。

調査対象は、かながわ信用金庫と湘南信用金庫が従来から行っている景況調査先のうちの市内企業に加え、横須賀市及び横須賀市産業振興財団がさらに追加調査しました。

3か月に1回発行しています。

【市ホームページ（下記）からもご覧いただけます。】

横須賀市中小企業景況レポート | 横須賀市

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4402/keikyoureport/yokosukasikeikyuripoto.html>

- ① 調査対象：市内中小企業
- ② 調査企業数：173社（うち、かながわ信用金庫+湘南信用金庫 調査 156社）
- ③ 調査期間：前期・・・平成 28 年 1～3月の景況感（調査時点 平成 28年3月1日）

今期・・・平成 28 年	4～6月の景況感（調査時点 平成 28年6月1日）
--------------	---------------------------

次期・・・平成 28 年 7～9月の景況感（ ” ” ）
- ④ 調査項目：景況、売上額、収益、雇用人員、資金繰り
- ⑤ 業種分類：製造業、建設業、卸・小売業、不動産業、サービス業
- ⑥ 集計方法：D I 値算出による（次ページに DI 値の説明あり）

景況及び4項目の調査結果（全業種）

*DI 値調査結果は裏面に記載

全業種の景況感は、前期の△2Pから3P悪化し、△5Pとなりました。

業種別にみると、製造業は16P悪化の△11P、サービス業は11P悪化の△16Pと厳しい業況が続く一方で、建設業は6P改善の22Pとなり、好調な値を維持しています。

次期は、卸・小売業を除く4業種で改善が見込まれています。今期大きく悪化した製造業も11Pの回復が予想され、全体としては5P改善の0Pとなっています。






全業種の項目別でみると、雇用人員は△27Pと、引続き人材不足感が強く、次期も同様の状況が予想されています。

売上額、収益、および資金繰りは、前期と比べて改善しているものの、それぞれ0P、△8P、△4Pと、依然として低い値を示しています。

また昨年同期（平成 27 年 4～6 月）との売上額の比較については、「増加」と回答した企業の割合が微増となり、DI 値は 3.4P の改善で△2.1P となっています。

DI 値・・・良い（多い）、変わらない（普通）、悪い（少ない）の回答のそれぞれが全体に占める構成比を求めます。次に、良い（多い）等の構成比（%）－悪い（少ない）等の構成比（%）を計算した結果です。プラス値が大きいほど景況感が良く（好況）、マイナス値が大きいほど景況感が悪い（不況）と言えます。

特に決まりはありませんが、このレポートは次の基準で記載しました。（マイナスは△表示）

○良い：15P以上  ○やや良い：6P～14P 
○変わらない（普通）：△5P～5P 
○やや悪い：△6P～△14P  ○悪い：△15P以下 

業種別 調査結果と事業者の声

*DI 値調査結果は裏面に記載

☆以下（ ）内は前回調査比 DI 値の増減

(1) 製造業 $\Delta 11$ <やや悪い>

景況感 DI 値は $\Delta 11P$ ($\Delta 16P$)、収益 DI 値も $\Delta 17P$ ($\Delta 7P$) と厳しい状況です。売上額 DI 値も $\Delta 3P$ (+2P) と、低位での横ばい状況にあります。次期の景況感、売上額は、改善が見込まれています。

☆事業者の主な声☆

- ・製品単価のコストダウンが要求され利幅縮小を余儀なくされている。
- ・円高が進み、今後、輸出メーカーからの注文が減少することが予想される。
- ・大手自動車会社の不正の影響がある。
- ・機械や人材が不足しているという声も社内にあるが、設備投資については急に受注が減ることもあるため慎重に考えている。
- ・アベノミクスの影響は中小企業には及んでいないと感じる。
- ・今後、売上を維持していく為に、更なる新製品の開発も視野に入れている。
- ・新型機導入により生産面でのコスト削減及び時間短縮等、効率的に作業が出来ている。

(2) 建設業 22 <良い>

景況感 DI 値は、「良い」が増えて $22P$ (+6P) となり、5業種の中で最も高い値を示しています。売上額 DI 値は $17P$ (+6P)、収益 DI 値は $11P$ (+8P) と前期と比べて改善しました。一方、雇用人員は、 $\Delta 41P$ ($\Delta 14P$) と前期に比べ悪化し、人手不足の状態が依然続いています。

☆事業者の主な声☆

- ・4月以降も注文住宅及びリフォームが順調に推移している。
- ・東京オリンピックの効果もあり、東京・千葉など県外の受注が増加している。
- ・震災復興工事やオリンピック関連工事等が本格的に動き始めていることから、下請け業者も忙しく、人員の確保も難しくなっており、施工が追い付かず全ての受注に対応しきれていない。
- ・人手不足が解消されていないことから、引続き人材確保・若手指導が急務である。
- ・同じ建設業でも建築業と土木工事業では雲泥の差がある様子。土木工事業は民間からの発注がほとんどない。
- ・資金繰りをはじめ全てにおいて順調に進んでいるが、雇用に関しては大変苦戦している。

(3) 卸・小売業 **△15** **<悪い>** ↓

景況感 DI 値は△15P (+7P) と改善の兆し、売上額 DI 値も△11P (+9P) と前期に引き続き改善しています。それに伴い収益 DI 値も△23P (+10P) と改善し、次期も引き続き改善の見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・春先より好天が続き、地域イベント向け需要が好調だった。
- ・店舗周辺の顧客高齢化が進み、小売部門が低調。
- ・地元企業として地域に密着したセールスで既存顧客の流出防止が当面の課題である。
- ・今後も近隣固定客を中心にアフターサービス等で大型店との差別化を図っていく。
- ・4月に入り個人客の販売が微増しているが、業務用の販売が横ばい状態である。

(4) 不動産業 **8** **<やや良い>** ↗

景況感 DI 値は8P (±0P) で、横ばいの状況です。今期、売上額 DI 値 25P (+32P) と収益 DI 値 25P (+32P) は前期と比べ大幅に改善し、マイナスからプラスに転じました。次期に向けては落ち着くことが見込まれています。

☆事業者の主な声☆

- ・売主の売却希望額と最終消費者価格に乖離が大きいことから仕入れが難しく、在庫の確保が今後の課題。
- ・横浜市の市況は活発に動いている感じであり仲介も順調。今後は管理部門に力を入れて行く。
- ・販売価格についても利益を確保しながら随時、適正な価格設定となるよう見直しを図ることで、7月以降も前年並みの利益確保を見込む。
- ・自社で手掛ける大規模なプロジェクトの契約及び引渡しが順調に推移していることが、前年比売上げ増の要因となった。

(5) サービス業 **△16** **<悪い>** ↓

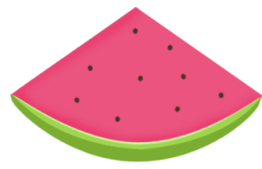
景況感 DI 値は△16P (△11P) と悪化、次期予想は+3P と横ばいの傾向が示されています。売上額 DI 値は△11P (±0P)、収益 DI 値は△8P (±0P) と横ばい、次期はそれぞれ△9P、△2P の悪化が見込まれています。雇用人員 DI 値は、今期△33P (△14P)、次期△38P (△5P) と依然厳しい状態が続きそうです。

☆事業者の主な声☆

- ・レジャー客の集客に努めたが、客単価が上がらず売上増加には直接繋がらなかった。
- ・常連顧客の高齢化が進んでおり、毎年売上げは微減、利用頻度が低下する一方、光熱費等の固定費はほぼ変わらない為、利益を圧迫している。
- ・市内の米軍基地向け賃貸物件の増加が原因の一つとなり、米軍関係者の短期宿泊者が減少。
- ・東京オリンピックに向けた準備が加速するため競争が激化するが、売上に繋がる取り組みを実施したい。
- ・円高が進んでいて、輸入コストが下がるので助かっている。

DI 値 調査結果

前・・・前期 平成28年1～3月の景況感（調査時点 平成28年3月1日）
 今・・・今期 平成28年4～6月の景況感（調査時点 平成28年6月1日）
 次・・・次期 平成28年7～9月の景況感（ ” ” ）



業種別調査企業数(回答数)

(単位：社)

	全業種	製造業	建設業	卸・小売業	不動産業	サービス業
前期	170	39	37	45	13	36
今期	173	36	37	49	12	39
次期	172	36	36	49	12	39

(単位：ポイント)

項目	業種	全業種			製造業			建設業			卸・小売業			不動産業			サービス業		
		前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次
景況		景況全般について総合的な概況をお聞きました。																	
	良い(A)	23	17	20	31	14	22	35	41	39	16	14	12	8	8	17	17	5	10
	変わらず	52	61	60	43	61	56	46	40	53	46	57	59	92	92	75	61	74	67
	悪い(B)	25	22	20	26	25	22	19	19	8	38	29	29	0	0	8	22	21	23
	DI値(A)－(B)	△2	△5	0	5	△11	0	16	22	31	△22	△15	△17	8	8	9	△5	△16	△13
	今－前、次－今	△3	5		△16	11		6	9		7	△2		0	1		△11	3	
売上額		製造業については、生産品を出荷した額をお聞きました。																	
	好転(A)	23	25	23	31	25	31	38	41	35	16	20	20	8	25	17	14	15	8
	変わらず	47	50	53	33	47	44	35	35	54	48	49	47	77	75	75	61	59	64
	悪化(B)	30	25	24	36	28	25	27	24	11	36	31	33	15	0	8	25	26	28
	DI値(A)－(B)	△7	0	△1	△5	△3	6	11	17	24	△20	△11	△13	△7	25	9	△11	△11	△20
	今－前、次－今	7	△1		2	9		6	7		9	△2		32	△16		0	△9	
収益		売上から経費を引いた収益状況をお聞きました。																	
	増加(A)	17	18	21	21	11	17	27	38	32	11	10	24	8	25	17	14	15	13
	変わらず	53	56	55	48	61	52	49	35	57	45	57	41	77	75	75	64	62	64
	減少(B)	30	26	24	31	28	31	24	27	11	44	33	35	15	0	8	22	23	23
	DI値(A)－(B)	△13	△8	△3	△10	△17	△14	3	11	21	△33	△23	△11	△7	25	9	△8	△8	△10
	今－前、次－今	5	5		△7	3		8	10		10	12		32	△16		0	△2	
雇用人員		需要に対応できる労働状況をお聞きました。																	
	多い(A)	6	6	3	8	6	3	5	5	0	7	8	6	0	0	0	6	5	3
	適正	66	61	66	59	66	72	63	49	57	64	65	71	92	83	83	69	57	56
	少ない(B)	28	33	31	33	28	25	32	46	43	29	27	23	8	17	17	25	38	41
	DI値(A)－(B)	△22	△27	△28	△25	△22	△22	△27	△41	△43	△22	△19	△17	△8	△17	△17	△19	△33	△38
	今－前、次－今	△5	△1		3	0		△14	△2		3	2		△9	0		△14	△5	
資金繰り		資金繰りが上手く行っているかを判断するためお聞きました。																	
	楽である(A)	11	12	12	18	14	14	14	19	16	9	6	8	0	8	8	6	10	11
	さほど苦しくない	70	72	70	64	69	67	67	70	70	64	67	65	92	92	92	77	77	73
	苦しい(B)	19	16	18	18	17	19	19	11	14	27	27	27	8	0	0	17	13	16
	DI値(A)－(B)	△8	△4	△6	0	△3	△5	△5	8	2	△18	△21	△19	△8	8	8	△11	△3	△5
	今－前、次－今	4	△2		△3	△2		13	△6		△3	2		16	0		8	△2	

<参考> 昨年同期と現在の売上比較(回答 142社)

	企業数	今期構成比	(参考) 前期構成比
昨年と比べ「売上額」が増加(A)	42社	29.6%	26.5%
昨年と比べ「売上額」が変わらない、横ばい	55社	38.7%	41.5%
昨年と比べ「売上額」が減少(B)	45社	31.7%	32.0%
DI値(A)－(B)		△2.1 P	△5.5 P

